



環境省

持続可能な地域づくりとエコツーリズム

2023年2月18日

環境省自然環境局国立公園課
国立公園利用推進室
岡野隆宏



持続可能な地域づくり

持続可能な地域とは？

- 将来世代まで豊かさを享受できること
- 環境・社会・経済が持続可能であること

観光は持続可能な地域づくりにつながっていますか？

- 環境・社会・経済に負の影響がなく、正の効果がある

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



(株)インターリスク総研より資料提供

SDGs "wedding cake" illustration presented by Johan Rockström and Pavan Sukhdev

エコツーリズムとは

- 地域の自然環境を保全するために、持続的な観光を通じて活動しながら地域に経済効果を生みだし、その利益を地域社会の福利や環境保全に還元させる仕組み。

エコツーリズム構成要素（国際エコツーリズム協会（TIES））

- 生物多様性の保護への貢献
- 地元住民の福利の維持
- インタープリテーション／学習経験がある
- ツーリストと観光業界の責任ある行動
- 小規模ビジネスによる小規模グループを主とする
- 再生不可資源の最低限の使用
- 特に農山村地域住民の参加、ビジネス機会提供に力を注ぐ

※ツーリズムは、ツアーをつくりだし、実践する仕組みや考え方

エコツーリズム推進法について（2007年成立）

エコツーリズムの定義

観光旅行者が、自然観光資源について知識を有する者から案内又は助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深めるための活動をいう。

主務大臣

環境大臣（環境省）、国土交通大臣（国土交通省観光庁）、
文部科学大臣（文部科学省）、農林水産大臣（農林水産省）

背景

●観光による自然への悪影響（踏み荒らし、ゴミ散乱、混雑等）
→自然保護に配慮した観光の推進

●環境問題への関心の高まり
→実際に自然とふれあい、その仕組みを理解することが重要

基本理念

- ・ 自然環境の保全
- ・ 観光振興
- ・ 地域振興
- ・ 環境教育の場としての活用

自然環境に配慮しましょう。



自 然環境の保全に配慮しながら、地域の創意工夫を生かしたエコツーリズムを実現させるためには、エコツーリズムを通じた自然環境の保全、観光振興、地域振興、環境教育の場としての活用を図り、これらをうまく両立させなくてはなりません。法律にはこの四つの項目を基本理念として位置づけています。

色んな生きものがつながりあって、微妙なバランスの中で成り立っているんですよ。

そうだね。また行こう！

初めての体験だったけど楽しかったわね。

地域の観光の活性化に結びつけましょう。



地域への誇りや生きがいの創出の場に結びつけましょう。



自然の大切さを学びましょう。

エコツーリズムを進めるための取組

エコツーリズム推進基本方針（2008.6.26）

①観光、自然保護、農林水産業等に携わる人々、住民、行政などが一堂に会して話し合い、

⇒ エコツーリズム推進協議会の設置

②地域が伝えたい魅力（宝）を見つめ直し、探し出し、

⇒ 資源調査・利用実態調査の実施

③その魅力を大切にしつつ磨き、

⇒ 保全対策、利用ルールの設定、人材育成

④観光旅行者に伝え、

⇒ プログラムの作成、広報、ガイドツアーの実施

⑤観光旅行者の感動を原動力にさらに玉を磨き、

⇒ モニタリング、評価、人材育成

⑥地域経済に活力を与えつつ、他産業との連携などの波及効果を拡げる

⇒ 観光産業の育成、持続可能な地域づくり

エコツーリズム全体構想

エコツーリズムを推進しようとする市町村は、関係者に広く参加を呼びかけ、法第5条の規定に基づき、エコツーリズム推進協議会を組織することができます。

エコツーリズム推進協議会

地域の貴重な資源を
次の世代に残していこう。

どういう魅力的な
自然や歴史文化が
あるんだろう？

活用しながら
守っていくには
どんなルールが
いいだろう？

どんな
ツアーにして、
お客さんに
来てもらおう？

自然が壊れていないか
どうやって調査しながら
見守っていこう？

基本方針
に即して
作成

**全体
構想**

- ・速やかに公表
- ・主務大臣へ報告

- ※エコツーリズム推進に係る連絡調整を担当。
- ※モニタリング、全体構想の実施状況の評価・点検
→構想の見直し



エコツーリズム推進全体構想が認定されると

1. 地域資源の保護

これまで法的に保護措置が担保されてこなかった自然観光資源についても「**特定自然観光資源**」に指定することで、汚損や損傷、除去、観光旅行者に著しく迷惑をかける行為を禁止するなどの**保護措置を講じることが**できます。

2. 立入り人数の制限

必要に応じて、**特定自然観光資源**が所在する区域への**立入り人数の制限**を行うことができます。

3. 広報

国が、認定地域の取り組みを全国に**PR**します。

4. 道路運送法上の取り扱いの明確化

全体構想認定地域内において、**エコツアー等の事業者**がそのツアー参加者を対象に行う**送迎のための輸送**について、対価を収受しない場合には、道路運送法に基づく旅客自動車運送事業の**許可を要しない**。

エコツーリズム全体構想認定地域



2009（平成21）年以降、全国で22地域が認定を受けている。
（2023年2月現在）

エコツーリズムを成立させるために必要なもの

- ①地域の自然や文化に対する知識や経験の案内
= **ガイドンス**（インタープリテーション）



- ②地域の自然や文化を保全・維持するための取り決め

= **ルール**
影響のモニタリング



モニタリング結果の反映

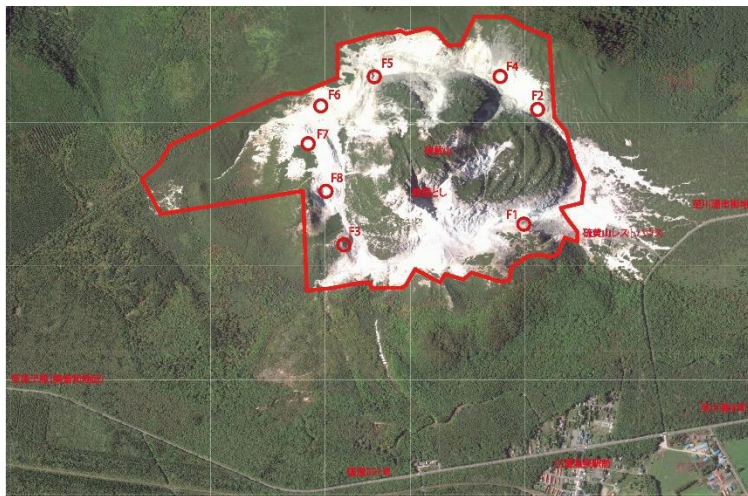
てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想 (てしかがえこまち推進協議会)

特定自然観光資源「硫黄山の噴気孔」設定の背景

- 弟子屈町では、てしかがえこまち推進協議会を主体として、町の豊かな自然環境や恵まれた歴史・文化環境等の資源を保全しながら、これらを活用したエコツーリズムによる観光振興・地域振興を基軸とした持続可能な経済活動を目指している。
- 硫黄山の「噴気孔」は、大小合わせて1500箇所以上存在しており、その周辺では、火山ガス中の硫黄が昇華することで、黄色く美しい針状の硫黄結晶を形成させている特徴的な景観をみることができる。
- 噴気孔は大小様々であるとともに厚さも薄く、内部の空洞の状況が目視では確認しづらい。また、上部ほど高品質な硫黄が形成されているが、こうした部分は利用者に触れられやすい部分であることから、多数の者が無秩序に利用することにより、踏み抜きや反復的に踏まれることなどにより、噴気孔の拡大や、硫黄結晶の損壊を招き、自然観光資源として損なわれるおそれがある。

利用のルール

- 人数制限を導入し、年間5万人を超えないこととし、1日130人（通年）を上限人数として設定。
- また、硫黄山の地理や噴気孔の特性等についての知見を有し、適切に利用者を案内・指導できる認定ガイドの同行を条件とすることで特別な体験を提供するとともに噴気孔の適切な保護を図る。参加料金 1名様9,900円（税込）
- 認定ガイドは、北海道アウトドアガイド資格を有していること、てしかがえこまち推進協議会が開催する硫黄山学の受講を修了していること、などを条件



立入制限区域



硫黄山の噴気孔



登山道

西表島エコツーリズム推進全体構想 (竹富町西表島エコツーリズム推進協議会)

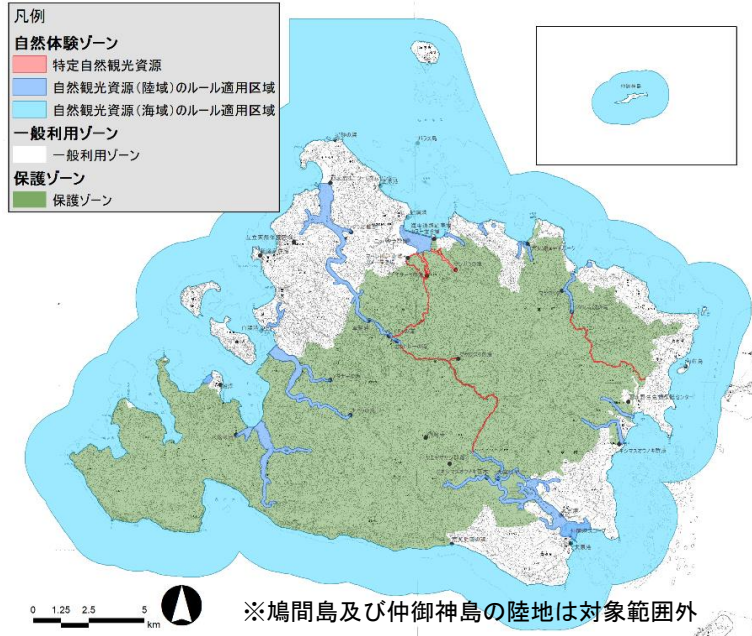
全体構想策定の背景と目的

- 西表石垣国立公園で、世界自然遺産に登録された西表島は自然と文化が豊かでエコツーリズムの先進地。
- 近年、自然体験型観光が増加しており、利用フィールドやガイド事業者の課題が生じており、全体構想と竹富町観光案内人条例により、適切な観光管理の下で西表島におけるエコツーリズムの実現を図る。

利用の考え方

- 西表島及びその周辺海域を3つの利用区分にゾーニング。
- 自然体験型の利用が一定以上ある箇所を自然体験ゾーンとし、利用ルールや立入り制限を設けたうえで、竹富町観光案内人条例との連携等により実効性を担保。
- 上記以外の世界自然遺産内は保護ゾーンとし、無秩序な利用を抑制。

ゾーニング及び利用フィールドの位置図



特定自然観光資源における人数制限

- 年間を通じて、特定自然観光資源に立入ろうとするものは事前に竹富町長に申請を行い、承認を得る必要がある。
- 上限人数を設定するとともに、推進協議会が指定する要件を満たす者の同行又は講習の受講等を承認の条件とし、特別な体験を提供するとともに特定自然観光資源の適切な保護を図る。
- 地域住民による利用、維持管理活動などは制限の対象外。

立入りの上限人数

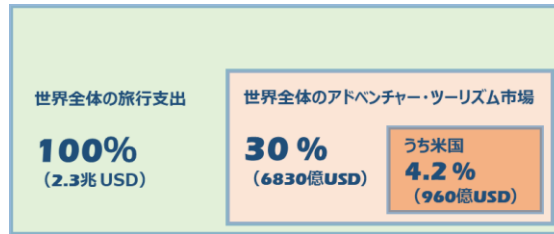
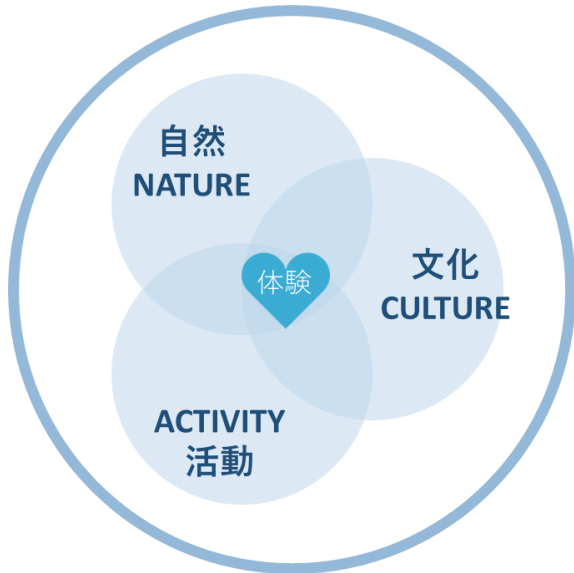
特定自然観光資源	上限人数
ヒナイ川	200人/日
西田川	100人/日
古見岳	30人/日
浦内川源流域 (横断道)	50人/日
テドウ山	30人/日

滝つぼの混雑の状況



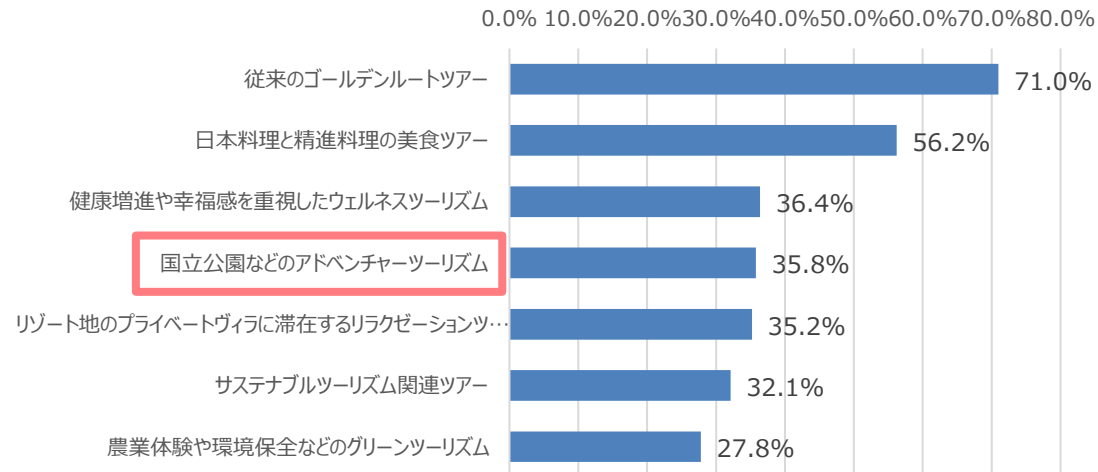
注目が高まるアドベンチャー・トラベル

- 海外（特に米国）では、アドベンチャー・ツーリズムの人気の高まっており、海外エージェントが日本に求めるツアーでもアドベンチャー・ツーリズムを挙げる声が多い。
- ATTAによる試算では、世界全体の旅行市場の中で、アドベンチャー・ツーリズム市場が30%を占めている。特に米国における市場規模の割合が大きい。マストゥリズムでは消費額のうち地域に残るのは14%に留まるのに対し、アドベンチャー・ツーリズムの場合は65%が地域に残るとされている。



マストゥリズム	アドベンチャー・ツーリズム
14	国内に留まる収益 (%) 65
1.5	地元における雇用効果 (人/10万USD) 2.6

今後、日本に力を入れてプロモーションしてほしいツアー



- ◆ 「自然」、「アクティビティ」、「文化体験」の3要素のうち2つ以上で構成される旅行。
- ◆ AT旅行者は、旅行を通じて自分自身の変化や視野の拡大、学び等を得ることを目的としており、個々のコンテンツの質の高さは当然として、旅行者それぞれの興味・関心に応じたテーマ・ストーリー性のある滞在プランなど、その地域ならではの体験を求めていることが特徴

国立公園満喫プロジェクト

「明日の日本を支える観光ビジョン（2016年3月）」の柱の一つに国立公園が位置づけられる
2016年～ 国立公園満喫プロジェクト開始
【訪日外国人の国立公園利用者数】 490万人（2015年） → 667万人（2019年）

国立公園の保護と利用の好循環により、 優れた自然を守り地域活性化を図る

- ◆ 日本の国立公園のブランド力を高め、国内外の誘客を促進。利用者数だけでなく、滞在時間を延ばし、**自然を満喫できる上質なツーリズム**を実現。
- ◆ 地域の様々な主体が協働し、地域の経済社会を活性化させ、自然環境の保全へ再投資される好循環を生み出す。



国立公園の優れた
自然環境

最大の魅力は
自然そのもの

保護

利用

地域資源として
自然の価値向上

地域の産業の活性化
地域の持続的な発展

日本の国立公園のブランドコンセプト

ブランドメッセージ

その自然には、物語がある。

提供価値

多様な自然風景と、生活・文化・歴史が凝縮された物語を知ること、忘れられない唯一無二の感動や体験ができる。

情緒価値

自然風景・自然体験・文化体験の多様性に感心する

自然と人の共生で生まれた歴史や物語が心に響く

機能価値

一期一会の自然風景の多様性を感じることができる

自然と人々の共生による生活・文化を体験できる

地域の人々やレンジャーたちが対話し守ってきた歴史を学ぶことができる

事実・ファクト

同じ公園・同じ場所でも時によって違う景色を見せる

多様性に富む34の公園（動植物、景観）がある

人が手を入れ共生してきた自然がある

地域性である

地域の資産である

保護し、また利用に係る整備をしてきた

【気候】 四季がある

【地形】 南北に長く、標高差があり、地形も複雑で狭い国土

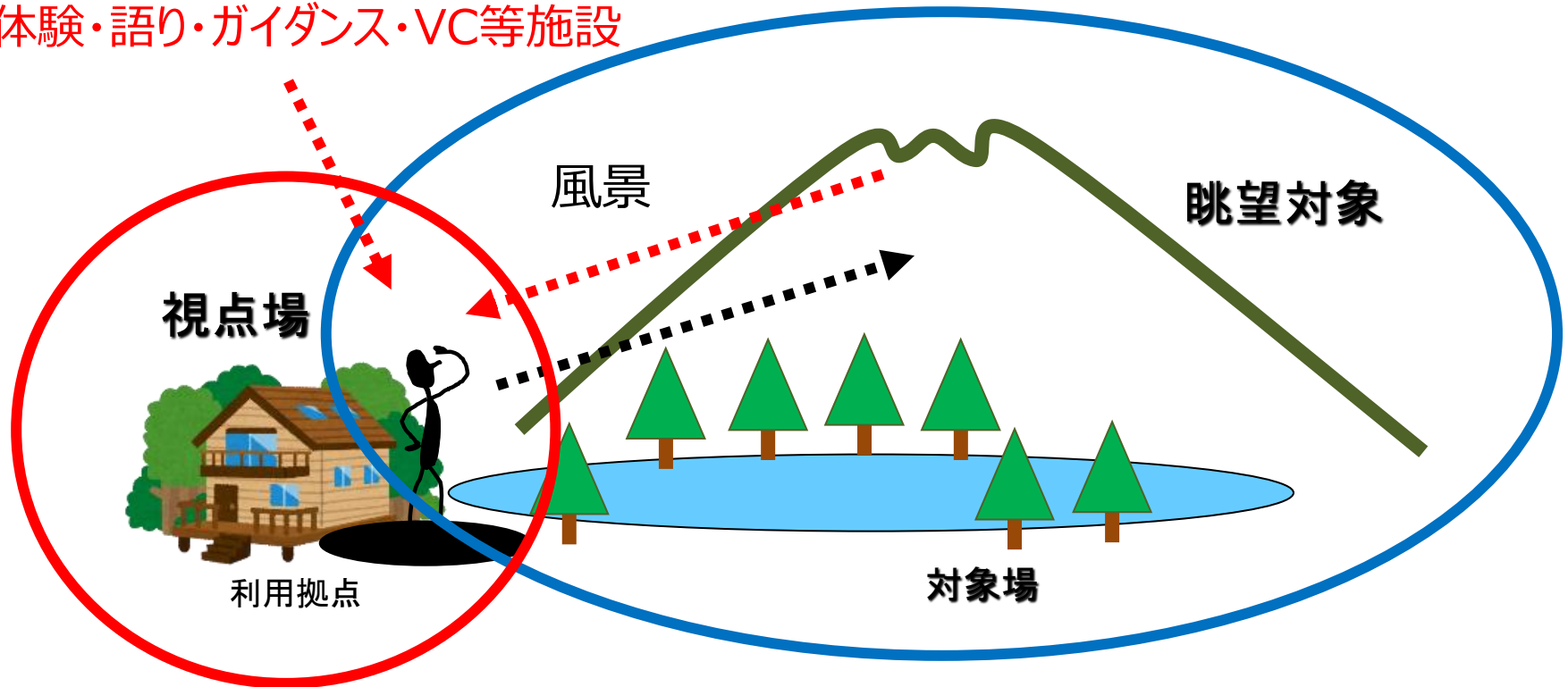
【制度】 日本を代表する「傑出した自然の風景地」として国が指定

日本の特徴

物見遊山から感動と学びの旅へ

情報（ストーリー・保全の仕組み）
体験・語り・ガイダンス・VC等施設

風景の捉え方（概念）



「風景の利用」と「風景の保護」

「情報」の付加による「感動」と「学び」
→Transformation（意識変容、行動変容）



上質なツーリズムの5つの要素

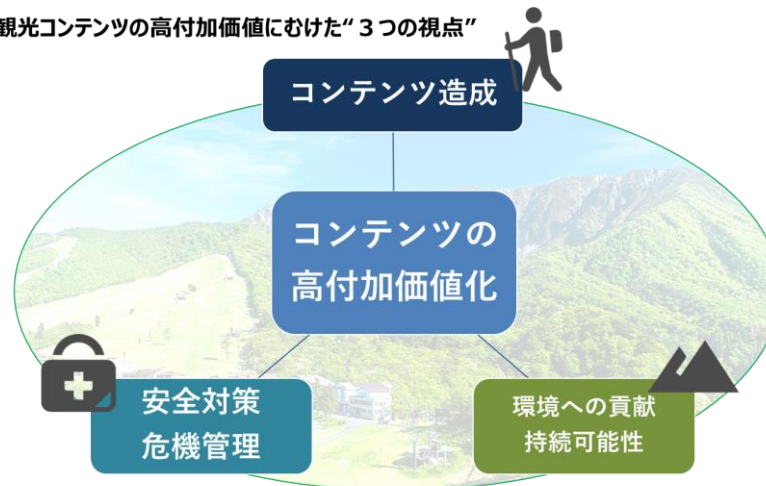
- ◆ **物語（ストーリー）**：自然の成り立ちと人の営みを伝える
 - 公園ごとのストーリーを明確に、他の公園との違いも明らかに
 - 食や工芸、祭祀などとのつながりを位置付け、魅力の向上、地産地消などによる地域経済に貢献
- ◆ **インタープリテーション**：感動と学びをサポートする
 - 来訪者にもたらしたい体験を明確に
 - 体験コンテンツ及びツアーの造成、ビジターセンターや標識等の施設整備などの方針
 - 参加者の個性や経験に関連付けて、新しい世界を開いて見せる
インタープリターの人材育成が重要
- ◆ **ルール**：保護と利用の好循環を生む
 - 規制や制限は唯一無二の感動と体験を提供する仕組み
(感動を与える自然の保護、人数制限による限定体験・圧倒的感動)
 - 協力金等により、自然環境の保全や野生生物の保護に貢献



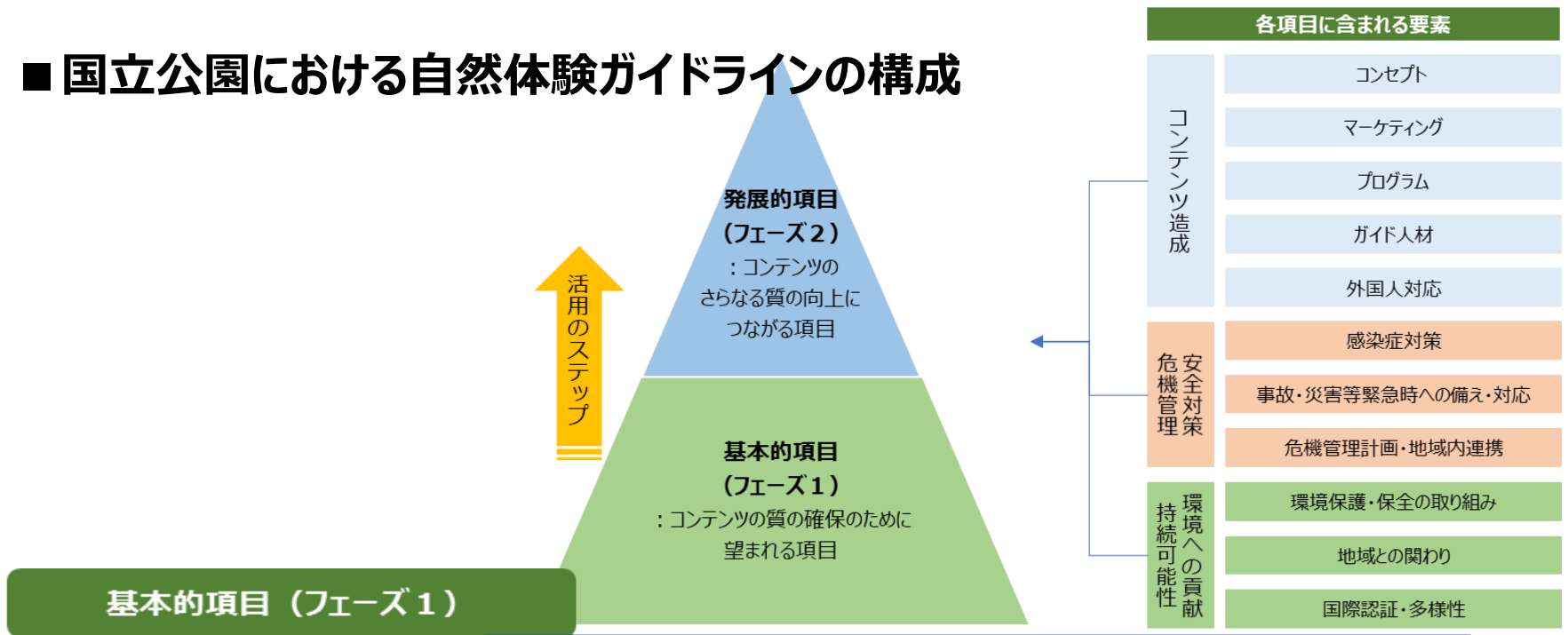
上質なツーリズムの5つの要素

- ◆ **体験コンテンツ**：自然や文化を五感で体験
 - 『国立公園における自然体験コンテンツガイドライン』策定
 - コンテンツ造成、安全対策・危機管理、環境への貢献・持続可能性の三つの観点から、高付加価値化の手助け
- ◆ **ツアー化**：商品化
 - 物語に沿って、複数のコンテンツ、宿泊、移動を組み合わせ
 - 上質な宿泊施設や食、限定体験などと組み合わせ高付加価値化
 - 旅行者のニーズを理解して、その旅行者のためだけのストーリーを立て、行程を組み立てられるコーディネーターの育成が課題

■ 観光コンテンツの高付加価値にむけた“3つの視点”



■ 国立公園における自然体験ガイドラインの構成



基本的項目 (フェーズ1)

国立公園のコンテンツとして望まれる基本的項目を、コンテンツ造成（コンセプト、マーケティング、プログラム、ガイド人材、外国人対応）、安全管理・危機管理（感染症対策、事故・災害等緊急時への備え・対応、危機管理計画・地域内連携）、環境への貢献・持続可能性（環境保護・保全の取り組み、地域との関わり、国際認証・多様性）の観点より整理しています。

☞ フェーズ1は個別事業者の取り組みにより、コンテンツの質の確保につながる項目です。

発展的項目 (フェーズ2)

基本的項目(フェーズ1)を満たした上で、地域ぐるみで国立公園におけるコンテンツのさらなる質の向上を目指すために、付加価値づけに向けた要素（ストーリー性・専門的なガイディング等）や主体的な安全管理・危機管理等への取り組み（危機管理計画の作成・地域内における催行判断基準の主体的な設定等）、地域住民をはじめとした地域関係者との連携・地域経済への貢献等、より一層の環境への貢献・持続可能性について項目を整理しています。

☞ フェーズ2は事業者が主体となり、地域関係者と一緒に取り組むことにより、選ばれる地域となるようコンテンツのさらなる質の向上を目指す項目です。

環境省の主な支援策①（認定地域への支援）

エコツーリズム推進全体構想認定地域ネットワーク会議

- 日本全体のエコツーリズムの推進や認定地域による活動を促進するため、エコツーリズムの取り組みを進める上での課題や成果を共有し、認定地域間の連携による課題解決などを図る
- ※具体的取組：優良事例の学び合い、相互アドバイザー訪問、全体での勉強会
自主財源確保や人材育成、インバウンド対策等の課題を協働で研究、全体での情報発信等

PR

- 全体構想認定地域について、パンフレット等でPRするとともに、一年に一度、各地域の取組をとりまとめて全国PRする。
- 全体構想認定地域には、希望に応じて、「ツーリズムEXPO」にブース出展
- ※情報発信のほか、商談会も実施
- そのほか、希望に応じて、環境省主催のイベントでのPRに参加



環境省の主な支援策②（認定地域に限らない支援）

自然資源を活かすエコツーリズム・インタープリテーションの人材育成支援事業

- エコツーリズム等を活用して地域活性化に取り組む地域を対象に、ビジターセンターなどの拠点施設のスタッフや、体験プログラム、エコツアーなどを企画・実施する事業者やガイド、コーディネーターなど、地域における持続可能な仕組み構築に向けたキーマンとなる人材の育成支援を行う。
- 集合研修に加え、有識者をアドバイザーとして派遣するなど、エコツーリズムの推進にあたっての課題解決を含め支援。

エコツーリズム地域活性化支援事業（交付金）

- エコツーリズム等に取り組む地域協議会等へ支援
- 地域協議会は多様な主体で構成(市町村の参加は必須)
- プログラムづくり等に要する経費の2分の1を交付
（※全体構想を作成しようとする協議会に対し3年を限度に）



エコツーリズム大賞

- エコツーリズムに関連した活動について、優れた取組を表彰し、広く紹介する
 - エコツーリズムの普及と、エコツーリズムに取り組んでいる団体や事業者のモチベーション向上や取組レベルの向上を目指し、エコツーリズム大賞を実施
- ※大賞、優秀賞、特別賞、パートナーシップ賞などがある

エコツーリズム実現の鍵は協働（パートナーシップ）

- エコツーリズムの対象は地域の全て（自然・文化・社会）
- 地域にお住まいの方、ガイドなどの観光事業者、DMO、NPO、専門家、土地の所有者、関係行政機関、地方公共団体など多様な主体の**協働（パートナーシップ）**がカギ
- 協働とは、目的を共有しながら、それぞれが持つ個性や力を生かして主体的に役割を果たすこと
- 地域の宝探しや全体構想の策定は、**地域の魅力を再発見**し、それを**観光で生かす**とともに**将来に引き継ぐ**方法を考え**共有**するとともに、**協働**を導き、**プレイヤー**を生み出すプロセス